

令和7年度 学校総合評価

○ 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、学校課題である「活力ある生徒の育成」を踏まえ、本校の現状を多角的に分析し、5つの分掌ごとに重点課題を設定して組織的に取組を推進してきた。生徒一人ひとりの能力や適性の伸長を図り、主体的に学び、生き生きと学校生活を送る態度の育成を目指したものであり、その具体的な取組状況や評価の詳細については、アクションプランに示したとおりである。今後は、これらの評価を真摯に受け止め、指導の一層の改善と生徒の意欲向上につなげていく必要がある。

学習活動においては、ICTを活用した指導力向上および教育内容の充実を目的とした互見授業や教科別校内研修会について、学校訪問や互見授業週間の実施により高い参加率を達成し、授業改善に向けた取組は概ね成果を上げた。一方で、基礎力診断テストにおけるGTZスコアの向上・維持率は全体で72%にとどまり、目標の80%には達しなかったことから、基礎学力の定着と学習意欲の向上に引き続き課題が残る結果となった。

基本的な生活習慣の確立に関しては、毎朝の登校指導やさわやか運動、あいさつ週間を通じた継続的な声掛け、遅刻者への個別面談等を実施した結果、年間の無遅刻生徒の割合は79.9%となり、目標にはわずかに届かなかったものの、昨年度(76.4%)から改善が見られた。規範意識や自己管理能力の育成に向けた取組は一定の成果を上げているといえる。

進路支援においては、企業説明会や進路講話、全教職員による面接指導等を通して、生徒の進路意識の高揚と主体的な進路選択を支援した。その結果、「進路決定先に納得している」と回答した生徒の割合は98.8%に達し、目標を大きく上回った。好調な求人環境の影響もあるが、就職希望者全員が一次選考で内定を得るなど、生徒の希望に沿った進路実現において高い成果を上げることができた。

特別活動においては、1年生の全員加入制廃止による影響が懸念されたが、特活部・担任・顧問が連携して継続的に呼びかけを行った結果、部活動加入率は1月時点で82%となり、目標を達成した。また、各学年において積極的に活動に参加する生徒も一定数見られ、部活動の活性化に向けた取組は概ね成果を上げた。

規則正しい生活習慣の定着については、睡眠時間の確保に重点を置き、生活習慣調査や個別指導、啓発活動を実施した結果、睡眠時間6時間以下の生徒の割合は目標値である20%以下を大きく下回り、良好な状態を維持することができた。心身の健康の基盤づくりにおいて一定の成果が認められる。

○ 次年度へ向けての課題と方策

学習活動においては、基礎力診断テストのGTZスコアを活用した学習定着度の把握を継続するとともに、全体の約3割を占める最低ランク(D3)層をD2以上へ引き上げることが重要な課題である。また、教員間の連携を深め、互見授業の充実を図ることで、授業力向上と指導改善につなげていく必要がある。

基本的な生活習慣の確立については、遅刻防止に即効的な解決策はないことを踏まえ、日常的な声掛けや個別指導を中心とした粘り強い関わりを継続していくことが重要である。加えて、登校指導や集会での全体指導を通じて時間厳守の意識を定着させるとともに、家庭および保健部と連携しながら、生活習慣全体の改善を図っていく必要がある。

進路指導については、今年度は良好な求人環境に支えられ高い成果を得たが、今後も企業や関係機関との連携を強化し、社会が求める人材像を的確に把握することが重要である。また、生徒が主体的に進路を選択できるよう、家庭と連携した継続的な支援体制の充実を図る必要がある。

特別活動については、部活動加入率の維持・向上に向けて、生徒のニーズに応じた柔軟な部活動運営や新たな活動の検討が求められる。一方で、生徒数減少に伴う生徒会費の減少により、部活動予算の確保が大きな課題となっており、持続可能な運営方法について検討が必要である。

規則正しい生活習慣の定着に向けては、睡眠時間だけでなく、就寝時刻や睡眠の質にも着目した実態把握が必要である。そのため、調査内容の工夫を図るとともに、生徒指導部との連携を強化し、学校全体で生活習慣の改善に取り組んでいく必要がある。

○ 学校アクションプラン

令和7年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	生徒が主体的・対話的に参加し学ぶことができる授業を目指した互見授業・教科別校内研修会の実施と育成すべき資質・能力の伸長を図る授業の工夫
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・授業をはじめとした学習活動に対し目的意識や基礎的な学力がやや不足しているが、UDGs（魚津工業高校が提案する、より良い人生のための目標）の取組に興味を示し、自己の成長を望む生徒が多くみられる。 ・学校生活では、挨拶や清掃活動等をきちんと行うことができるが、授業や実習では、指示を待つ傾向が強く、自分で考えたり、自ら解決したりしようとする態度が不足している。将来、自己課題を解決し、やりたいことが実現できる資質・能力を育成する必要がある。
達成目標	①定期的に実施している基礎力診断テストの結果で生徒の学習定着度を測る。前回成績よりGTZスコアを維持、または、向上した生徒の割合
	②ICTを活用した指導力向上及び教育内容の充実を目的とした互見授業を実施し、教科別校内研修会に参加した教員の割合
	80%以上
	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・UDGsを活用した授業の実践を行い、各教科の知識・技能だけでなく、「自ら考え、判断する活動」や「主体的に取り組む活動」を取り入れ、育成すべき資質・能力の伸長を図る。 ・「課題に取り組む力」を身につけることが重要であることを生徒に伝え、全教職員で根気強く生徒の指導にあたる。将来の進路を決めるため、将来働くためには、「学ぶこと」と「課題に取り組む力」が必要になることを伝え続ける。 ・タブレット端末の効果的な活用方法や可能性を探り、その利用を推進する。 ・互見授業の開催・参加がしやすい環境を作り、多くの教員が研修会に参加するよう各教科へ働きかけを行う。
達 成 度	<p>①1・2学年で評価を実施した。実施前後のスコアの向上+維持の割合は下記のとおり。</p> <p>1年：4月→9月 74%、9月→1月 76%、4月→1月 82%</p> <p>2年：4月→9月 81%、9月→1月 29%、4月→1月 62% 総合 72%</p> <p>②10月実施 100%（学校訪問）、11月実施 93.5%（互見授業週間） 総合 93.5%</p>
具体的な取組状況	<p>①4月のテストは、指標として利用する旨を伝えずに実施。1学期終業式の際に、アクションプランとして掲げていること、また、4月の実施結果が、2学年より、1学年の方が良好であったことを伝え、2学年に取組状況を見直し、夏休み中にしっかり課題に取り組むよう全体指導を行った。また、2学期終業式の際、9月実施の結果について、2学年の伸びが高かったことを伝え、1、2学年とも冬休みも継続して課題に取り組むよう全体指導した。</p> <p>②3年に1度の学校訪問の機会を利用して、職員全員が、互見授業と教科別研修会に参加することができた。また、11月に例年開催の互見週間を実施し、互見授業と教科別研修会を実施した。</p>
評 価	<p>B</p> <p>①基礎力診断テストのGTZスコアを維持することの難しさが確認出来た。GTZスコアは、A1～D3-までの計18ランクに細分化して評価される。スコアの伸びた生徒、スコアを下げた生徒、また、最低スコアのD3-を脱却できない生徒などに対して、学習方法の確認や、学習内容の困り事など、面談を通じて解決できるような生徒指導につなげていきたいと考える。</p> <p>②学校訪問の機会を利用して有意義な活動ができた。1ヶ月後に互見授業週間を例年通り実施したが、積極的に授業を公開するなどし、成果が上がったといえる。</p>
学校関係者の意見	2年生での成績の変化が大きかったが、学科別による取組状況の把握をされた方が良いと思う。
次年度へ向けての課題	<p>①基礎力診断テストのGTZスコアを使用した学習定着度の確認は継続したい。スコアの比較を18段階で細かく評価するのではなく、現在、約3割の生徒が最低ランクのD3+/-スコアに属している。まずは、D2以上を到達目標に底上げすることが課題である。</p> <p>②風通しの良い職場環境を構築し、互見授業を通して、授業力の向上につなげるのが課題である。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の確立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、8割以上の生徒が8:30までには登校しているが、規範意識の低さから、安易に遅刻をしてしまう生徒がいる。 ・充実した学校生活を送るために、遅刻の防止を中心とした基本的な生活習慣を確立する必要があり、生徒指導部では毎朝登校指導を行っている。 ・過去の遅刻回数はR4年度194回、R5年度238回、R6年度499回であり、ここ数年は、体調不良での遅刻が最も多く、起立性障害のある生徒もいる。 ・昨年度の統計結果をみると、体調不良等による遅刻が339回(67.9%)、寝坊など自己管理の甘さによるものは、160回(32.1%)であった。また、年間の無遅刻生徒の割合(通院、体調不良等を除いたもの)は、76.4%(207名)であり、寝坊等による遅刻生徒の割合23.6%(64名)であった。64名のうち、遅刻2回以上の生徒が17名、うち5回以上5名があった。 	
達成目標	年間の無遅刻生徒の割合(通院等、体調不良を除く) 80%以上(188名以上) ※昨年度76.4%(207名)	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻しないための事前指導を充実させる。学校全体であらゆる機会、場面で基本的な生活習慣の確立および時間厳守の大切さについて指導する。 ・遅刻した生徒には、その都度、適切な声掛けをするとともに必要に応じて面談をし、遅刻の原因を考えさせ、自らの力で改善できるような指導を心がける。 ・遅刻を重ねる生徒には、学年・学科とも協力して個別指導を行う。 ・学年と協力し、朝学習への積極的な取り組みを促す。 ・食事、睡眠を正しくとるなど、自己管理、体調管理の徹底を呼び掛ける。 	
達 成 度	年間の無遅刻生徒の割合(通院、体調不良等を除いたもの)79.9%(187名) 寝坊等により1回以上遅刻した生徒の割合21.1%(47名) ※1月30日現在	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部員を中心に毎朝登校指導を実施している。また、多くの教職員の協力を得て、さわやか運動及びあいさつ週間において登校指導を実施した。 ・始業間に登校してくる生徒を中心に粘り強く声掛けをし、余裕を持って早めの登校を心掛けることを促した。 ・寝坊等で遅刻した生徒には、翌朝一緒にあいさつ活動を行いながら指導し、反省と改善に向けて考えさせた。翌朝からは登校時に前向きな声掛けを行い、時間を守る意識の継続に努めた。 ・各学期の始業式、終業式で基本的な生活習慣の確立の大切さについて呼びかけた。 	
評 価	B	1月30日現在で無遅刻者数は79.9%(187名)であった。目標をわずかに下回ったが、昨年度(76.4%)より若干の改善がみられた。遅刻者の内訳については、遅刻回数が1回の生徒の割合が48.9%(23名)、2回以上の生徒が51.1%(24名)であった。そのうち5回以上の生徒が3.0%(7名)であったことも含めて、今後も家庭の協力も仰ぎつつ、地道かつ粘り強い継続的な指導が必要であると考えます。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠不足による遅刻もあると考え、基本的な生活習慣の確立に向けて保健部との連携も必要ではないか。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特効薬はないものとして捉え、生徒とは日々の適切かつタイムリーな声掛けを中心とするコミュニケーションをとりながら、粘り強く、地道な活動を継続していくことが重要と考える。 ・毎朝の登校指導、集会等での全体に向けた指導、呼びかけも継続していく。 ・保健部とも連携して、生徒の基本的な生活習慣確立の推進に向けた活動に努める。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の高揚	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来や進路に対する認識が甘く、職業観・勤労観に乏しい生徒がみられる。 ・進路の選択決定において、継続的に取り組む態度に欠け、十分な対策を行わず就職試験や入学試験に臨む者がいる。 ・進学者の中に、明確な目的が感じられない生徒や基礎学力の低い生徒がいる。 ・3学年85名の内、62名が就職を希望している。 	
達成目標	自分の進路決定先に納得している生徒（学年末にアンケート調査を行う）の割合 92%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや応募前職場見学会への参加や進路講話などを積極的に推進し、生徒の進路意識を高める。 ・学年や学科と連携し、面接指導や進学補習の充実を図る。 ・面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導を行う。 ・入れる会社・学校からぜひ入りたい会社・学校を考え、各自に合った進路希望実現に向けて指導にあたる。 	
達 成 度	進路指導アンケート「自分の進路決定先に納得をしていますか。」との問いに 「ア 十分納得している。」 80名 「イ どちらかといえば納得している。」 4名 「ウ どちらかという不満である。」 0名 「エ 全く不満である。」 0名 「オ その他」 1名 アとイを回答した生徒の割合 98.8% 85名中84名の回答（1月14日現在）	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路オリエンテーション（全学年） ・進路ガイダンス（全学年） ・進路関連検査（全学年） ・本校会場の企業説明会（6月21日 参加企業数55社） ・インターンシップ（7月 2年生全員） ・卒業生講話（1年：2月、2年：3月） ・応募前職場見学、オープンキャンパスへの参加（3年） ・就職、進学に向けての準備と指導（3年：面接練習、作文・小論文指導、進学補習） 	
評 価	A	就職において、県内企業からの求人数は昨年度比で9%増加し、求人倍率が10倍を超えた。就職試験には、殆どの生徒が第1希望の企業を受験することができ、全員一次で合格内定をいただくことができた。このことから進路先に納得している生徒の割合が高くなったと考えられる。
学校関係者の 意見	進路決定後のアフターケアとして、就職・進学先でミスマッチが起きていないか、その後の状況を把握することの必要性が示唆された。	
次年度へ 向けての 課 題	今年度は求人状況が良好だったことで、進路に関しての生徒の満足度は高かった。これからも企業との情報交換等で、企業が求める人材像を把握し、その育成に努め、生徒が主体的に進路を決定できるように、家庭と連携して支援していく必要がある。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動加入者への積極的呼びかけと部活動の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への加入率は、4月の時点で1年76%、2年83%、3年89%であった。 ・1年生は昨年度から全員加入制を廃止したため、加入率が減少すると考えられる。 ・2、3年生は新規に加入する生徒は少ないと思われるため、加入率について現状を維持するとともに、積極的に活動に参加する生徒の割合を向上させる必要がある。 ・良い結果を求め、継続して部活動に参加し、積極的に練習に取り組んでいる生徒が多いが、その反面、部活動を欠席しがちな生徒もいる。部活動の更なる活性化のため、継続率の維持・向上を図ることは勿論、活動内容の改善を行うことも必要である。 	
達成目標	①部活動加入率	②部活動積極的参加率
	4月時点 83%以上 9月時点 82%以上 1月時点 81%以上 ※全員加入制廃止の影響を考慮し、学期毎に目標値を設定する。	1年生 90%以上 2年生 85%以上 3年生 85%以上 ※部活動への参加状況をA～Cの3段階で評価し、A（ほぼ参加）およびB（7割程度以上参加）となる生徒の割合
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生には、部活動の意義を説明する機会を増やす。また、クラス担任からだけでなく、特活部員・学年主任・学科主任などからも、積極的に参加するよう呼びかける。 ・2、3年生には、新しく後輩が入部してくるので新たな気持ちを持ち、先輩らしい行動・言動などにより、1年生の手本となるよう指導する。 ・各学期中に活動状況を調査し、担任が各生徒の活動状況を把握し易くするとともに、保護者会等で保護者と情報交換することで、生徒への啓発を促す。 ・夏季休業時の活動の重要性を周知するとともに、各顧問が参加状況を的確に把握することで、生徒の活動状況の管理に繋げ、生徒の活動意欲の低下を未然に防ぐ。 ・部活動を辞めたい生徒に対しては、進路指導やキャリア教育と絡めて部活動の重要性などをクラス担任や関係職員から説明するとともに、生徒の人間関係等にも留意し、必要に応じて保健部相談係の協力を仰ぐ。それでも継続が難しい場合は、他の部活動への転部も視野に入れた対応を進める。ただし、強制はしない。 	
達成度	5月時点 83%以上→ 83.0% 9月時点 82%以上→ 82.0% 1月時点 81%以上→ 82.0%	1年生 90%以上→ 91.0% (9月 91.9% 1月 90.1%) 2年生 85%以上→ 90.3% (9月 88.4% 1月 92.2%) 3年生 85%以上→ 95.0% (9月 95.0%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事として部活動紹介や部結成の日を設けた。 ・部顧問会議において、顧問が活発に部活動を行えるよう、①進路指導を絡める、②社会人としての礼儀等の指導を行う等、生徒がやり甲斐や向上心をもって部活動に取り組める指導方法を情報交換する等の工夫を行った。 ・1、2学期末に、各部顧問による活動状況の評価とコメントを、学年・担任に提供し、保護者懇談会を利用した個別指導に生かせるよう配慮した。 ・2学期始めにも調査を行い、夏休み中、活動が思わしくない生徒を把握し、面接週間時に担任からの声掛けをしてもらい部活動の継続、積極的活動に繋がるようにした。実際には各顧問に任せた形となった。 ・部活動の指針に合わせて、無理のない活動になるよう努めた。 	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は概ね、目標を達成した。 ・どの学年についても、積極的に参加している生徒は一定数存在する。 ・5月、9月時点で部活動加入率を維持できたのは学級担任と部活動顧問、特活部との情報交換が密に行われたことが関係していると考えられる。
学校関係者の意見	中学校における部活動の地域移行、コロナ渦を経て変化した生徒の活動環境を踏まえ、今後どのような部活動を推進していくか、これまでのあり方を再検討する必要があるのではないか。	
次年度へ向けての課題	今後も部活動加入率を維持していくために生徒のニーズにあった部活動運営や新しい部活動を開設していくことを検討していきたい。しかし、生徒数の減少から、生徒会費の大幅な減少により、部活動予算の大幅な減少が大きな課題である。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	規則正しい生活習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活・睡眠・運動等、生活習慣に問題をもって入学してくる生徒が多い。 ・特に夜型の生活や食習慣の偏りが、学習意欲の低下や肥満等、心身の健康と相関し、学校生活に悪影響を及ぼしている。 	
達成目標	睡眠時間6時間以下の生徒の割合	
	20%以下を維持する。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣調査を年2回（6月、10月）実施し、各自の生活を振り返らせる。 ・問題があると考えられる生徒には、個別指導を実施する。 ・担任や部顧問、教科担当との連携を図り、保護者会等で保護者に協力をお願いする。 ・外部講師を招き、集団保健指導を実施する。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期：7% ・2学期：6% 	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の生活習慣調査を実施し、生徒自身の生活習慣について見つめさせた。 ・6月の調査で睡眠時間が6時間以下と回答した生徒全員に対し、睡眠時間の大切さを伝える10分程度の動画を視聴させた。 ・保護者会資料として規則正しい生活習慣に関する資料を配布した。 ・12月に開催した学校保健委員会では、がんについての講演で理解を深め、規則正しい生活習慣の大切さを学んだ。 ・第2回生活習慣調査睡眠時間が6時間以下と回答した生徒全員に対し、個別指導をした。 ・保健室に来室する生徒に来室理由だけでなく生活習慣について話を聞く。 ・個別指導をした生徒はもちろんその他気になる生徒に声をかける。 	
評 価	A	昨年に引き続き睡眠の大切さについて意識させた。睡眠時間が6時間以下の生徒の割合が2回とも20%を下回ったためA評価とした。
学校関係者の 意見	20パーセントという数値に関しては、きちんと答えていない生徒もいるのではないかと。個別の理由を聞き、丁寧に対応することが大切。睡眠不足であがってきた生徒と遅刻の多い生徒と関連があるか調べる等、生徒指導部との連携も必要ではないかと。	
次年度へ 向けての 課 題	睡眠時間は6時間以上でも、就寝時刻が24時を過ぎる生徒もいる。睡眠時間、睡眠の質、就寝時刻がわかるように質問内容を工夫する。生徒指導部とも連携し規則正しい生活習慣の定着を図る。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)